無双系、あるいは武装系

俺は覚悟を決めて立ち上がり、左の頬、ではなく、サンドバ

時である。

今まで、馬鹿とかクズとか蛆虫とか罵られたことは数多くあ 桜一也 ッグ、もとい顔面を差し出した。紅子さんは可愛らしく平手で

クズな蛆虫野郎と解っていながら付き合ってた私のほうが愚か 「今まで馬鹿とかクズとか蛆虫などと罵って悪かった。馬鹿で ったが、

だったのだ」 ックに土下座するしかないではないか。 などとスタティックに切り出されたら、これはもうダイナミ

「本っつつ当に、申し訳ありませんでした」 俺の渾身の土下座に対して、紅子さんは、いっそ憐れむよう

「紅子さん……」 「……いつまでも頭を下げるのはやめて、顔を上げなさい」 な溜息を降らせて、

Ţ------J

「殴りづらいだろうが」

がある。具体的には、彼女とのデートを五回ほどすっぽかした 殴られると解っていても、男には、顔を上げねばならない時 渾身の土下座は冷酷な言葉で両断された。

> の鼻つ柱をへし折りにかかった。 頬を引っ叩こつとはせず、当たり前のよつに拳を握り固めて俺

いざ、鉄拳制裁。

際に彼女は殴り慣れている系の人物なのだが、とにかく拳を振 りかぶった。 もう殴り慣れてるんじゃないかと思うほどに美しい姿勢で、実 紅子さんは見惚れるくらい無駄に綺麗なフォームで、それは

を止めた。拳圧で前髪が揺れた。寸止めの練習に付き合ってや っているわけではないし、本気で怒った彼女が脅しだけで終わ しかし、何を思ったか、紅子さんは鼻先数ミリのところで拳

た。そして、数秒の逡巡の後一 るわけがないのは重々承知している。 怪訝に思っていると、紅子さんは無表情のまま拳を引っ込め

っ掻かれた、と」 る用途で伸ばされていたとしか思えないほど鋭利な爪で頬を引 「――で、結果的に金的喰らった挙句、明らかに誰かを攻撃す

ずに収められた。 紅子さんから「二度とその無様な顔を私の前に晒すな」宣告 三十分に渡って愚痴った内容は、翔によってわずか三行足ら 크 콘 「誤解だ」 「誰にも付き合ってもらえないほど俺が性悪って言ってんのか

を受けてから三日。傷は未だ癒えず。流石に傷を晒しながら歩 くわけにはいかないので、適当にガーゼで隠して外出していた 「とにかく、どうしたら紅子さんに赦してもらえるか、お前も とまあ、くだらないことを言っていても仕方がない。

ちょっと考えてくれよ」

ら、たまたまばったり、翔に出逢って説明を求められた。

「それは、お前、あれだ、いっぺん死んでこい」

「えー?」

お前、それが友人に対する言葉か。

慰めの言葉を期待していたわけではないが、もうちょっと、

懇切丁寧に説明してやると、翔は最終的にこう結論づけた。 三人よれば何とやらと言うくらいだ、二人もいれば遁世僧くら あまりあてには出来ないが、とりあえずアドバイスを求める。

慧があるかは知らないが。 いの智慧は得られるのではなかろうか。遁世僧にどれだけの智 「それは、お前、あれだ、いっぺん死ん」

蹴ってから言うなと罵られることだろう。 「それは聞き飽きた」 赤く腫れた鼻をさすりながら、翔が、ふと真面目な、今度こ いい加減にしないと蹴り倒すぞ、とここで言ったら、たぶん

そ本当に真面目な顔になって、

「別に、どうもしなくていいんじゃねーの」

「『その無様な顔』を晒すなって言われたんだろ? 傷が治った

頃に逢いに行けばいいんじゃん?」

「五回! 俺が女だったら三回で限界来てるぜ!」

「いや、お前が女だったらまず彼氏出来ないだろ」

面目な面の皮の一ミリ下では明らかに面白がりながら、説教を

しかし、いつも軽薄な翔が、今日はいつになく真面目に、真

回すっぽかしたって?」

「あんな可愛い彼女を侍らせてるっていうのによ、デートを何

「·········、ああ、そういう·····」

そういう、こと。 あまりにも簡単すぎる解答に、何度か瞬きを繰り返したあと、

俺は小さく溜息をついた。

そういう、ことですか。

る期間なのだ。 俺の愚行の証が頬から消えるまでは、つまり彼女が拗ねてい

言うのだから、つまり、それは、そういうことなのだろう。

自分で無様な顔にしてくれておきながら、それを見せるなと

紅子さんがそんな可愛らしいことをするだろうかと疑問にも

思ったが、それ以外に思いつかないので、たまには翔の言うこ

ともあてにできるというわけだ。

ません」などと素直に言うような御方ではない。彼女がそうい 確かに、彼女は、「暫くは拗ねているので顔を見られたくあり

う意図をそれとなく伝えようとすると、「秘技・引っ掻く」が発

動するということなのだろう。 まあ、それは、一週間くらい後で、本人に訊いてみればいい

ところで、俺はこんな「無様な顔」を晒して歩いているせい 「スパイクで」

引っ掻かれたと想像している奴はいないだろう。いたとしたら **嘩したのか、とか推測していることだろう。彼女に鋭利な爪で** らない人たちは、飼い猫に引っ掻かれたのか、とか、不良が喧 で、道行く人からとんでもなく白い目で見られている。何も知

そいつは千里眼か何かに違いない。 随分と恥ずかしい思いをせざるを得ない状況に陥っているわ

けだが、これに関する彼女の意図は、果たして、「報復」なのか 「ムシよけ」なのか。

たぶん訊いても、教えてくれない。

ためしに彼女に会いに行ってみると、 一週間後、傷は綺麗に消えた。

いう意味だと解釈していいのだろう? 「今度すっぽかしたら、酷いぞ」 その酷いは、「俺が酷い」のではなく、「私の報復が酷い」と

「今度は、頬だけでは済まさないぞ。背中を引っ掻く」 紅子さんはにやりと、愉しそうに笑う。

「そいつは恐い」

「スパイクで!!」

「人前で裸になれないようにしてやる」

意地の悪い笑みを浮かべる紅子さん。この意地の悪さと、残

りの十三パーセントくらいの女の子らしさが交じると、可愛ら

「人前で裸になる予定なんかない!」

しい策略家ができあがるらしい。

こんな過激で苛烈な武装系少女と何故付き合い始めたかと言

えば――A4一枚程度では語れないくらいには、何かがあった

【お題 ひっかく】